世代を超えて伝えたい古里の文化・・・川柳今昔

最近の地域課題では、地域活性化、防災、少子高齢化、健康・福祉、子どもたちの健やかな成長など、多くの課題を抱えている。また、予想だにしなかった新型コロナ感染予防対策もその一つである。

今；　当地域も、少子高齢化が進んで来ており、ともすれば地域全体に活気の機運、話題が希薄になっている様に感じています。そこで私たちは、“ふるさと愛着”を合言葉に老若男女が親しみやすくコミュニティの輪が広まる一助として持続可能な取り組み・・・川柳講座を開講しています。

今年初めて小学生、中学生、一般、部門で新春川柳大会を実施しました。なんと１５７人２５３句が寄せられました。また、吟句意欲が湧いた、吟行散歩が増えて元気になった、リフレッシュに繋がった等、多くの方と対話することもできました。

昔；　機関誌「高梁川」第７５号に、こんな記事(寄稿：岡山県川柳協会会長　高木勇三)が載っていました、笠岡市における近代川柳の盛衰について「川柳並木会」に集う新山の川柳作家の紹介を目にして、地元の川柳今昔について知ることとなりました。

☆初代会長　木山遠二　(以下敬称略)

・復員後の昭和二十年代後半、新山地区で同行の士と地元柳社「川柳並木会」を立ち上げる。最盛期には、三十余人の会員を擁し、月例会と各地区の大会へ腕試しに出かけるのを楽しんでいた。

　　日々好日裏から見える空もよし　　遠二　　・・・現新山地区自治会の庭に歌碑

☆二代目会長　高木桃里

・戦時中は戦艦大和を建造した呉工場に在籍、帰郷後、川柳と知り合う。遠二の後を引き継いで、会を盛り立てる。現四代目会長のご尊父でもある。

　　父と母と座った位置に妻と居り　　桃里

☆三代目会長　松本忠三

・会社役員として勤務する傍ら桃里亡き後の会長として奮闘した。

　　辞めろとは言いませんがの肩たたき　　忠三

☆四代目会長　高木勇三・・・二代目会長のご子息・現公民館川柳講座講師

・三代目から川柳の才能を認められて、会長職をバトンタッチされる。公務員と会長の二足のわらじは荷が重く、加えて会員の高齢化もあって、先細りの一途をたどることになるのである。その後も並木会は開店休業の状態でなんとか命脈を保っていたが、十年ほど前に公民館の川柳講座として復活を果たす。

今；　九人のメンバーは、月一回の例会で５－７－５の言葉遊びを楽しんでいます。

	水ぬるみ田畑へ勇む老いの鍬	勝子
	オリオンが煌めく夜空父が居る	章子
	暗がりのうしろ姿にちょっと惚れ	正義
	姉ちゃんを泣き泣き追うた鬼ごっこ	靖男
	三歳の本気わが家の春を呼ぶ	昭夫
	８時自粛やけに夜空が美しい	和子
	マイガーデンどれが花苗草の苗	俊子
	古代から黄砂に煙る国がある	正教
軸吟	理想論ばかり集めて決まらない	勇三

(公民館長)